



No.4

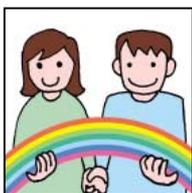
平成18.3.1発行

墨田区男女共同参画情報誌

特集

仕事だけが人生じゃない！

男たちのライフスタイル再考



墨田区男女共同参画情報誌『にじ』は女性も男性も共に輝く社会へのかけはしになることを願って名付けました。

## CONTENTS

巻頭インタビュー  
清水國明さん 2P

特集  
男たちのライフスタイル再考 4P

区民レポート  
「第二の人生」夫婦でどう過ごしていますか？ 6P

インフォメーション 8P

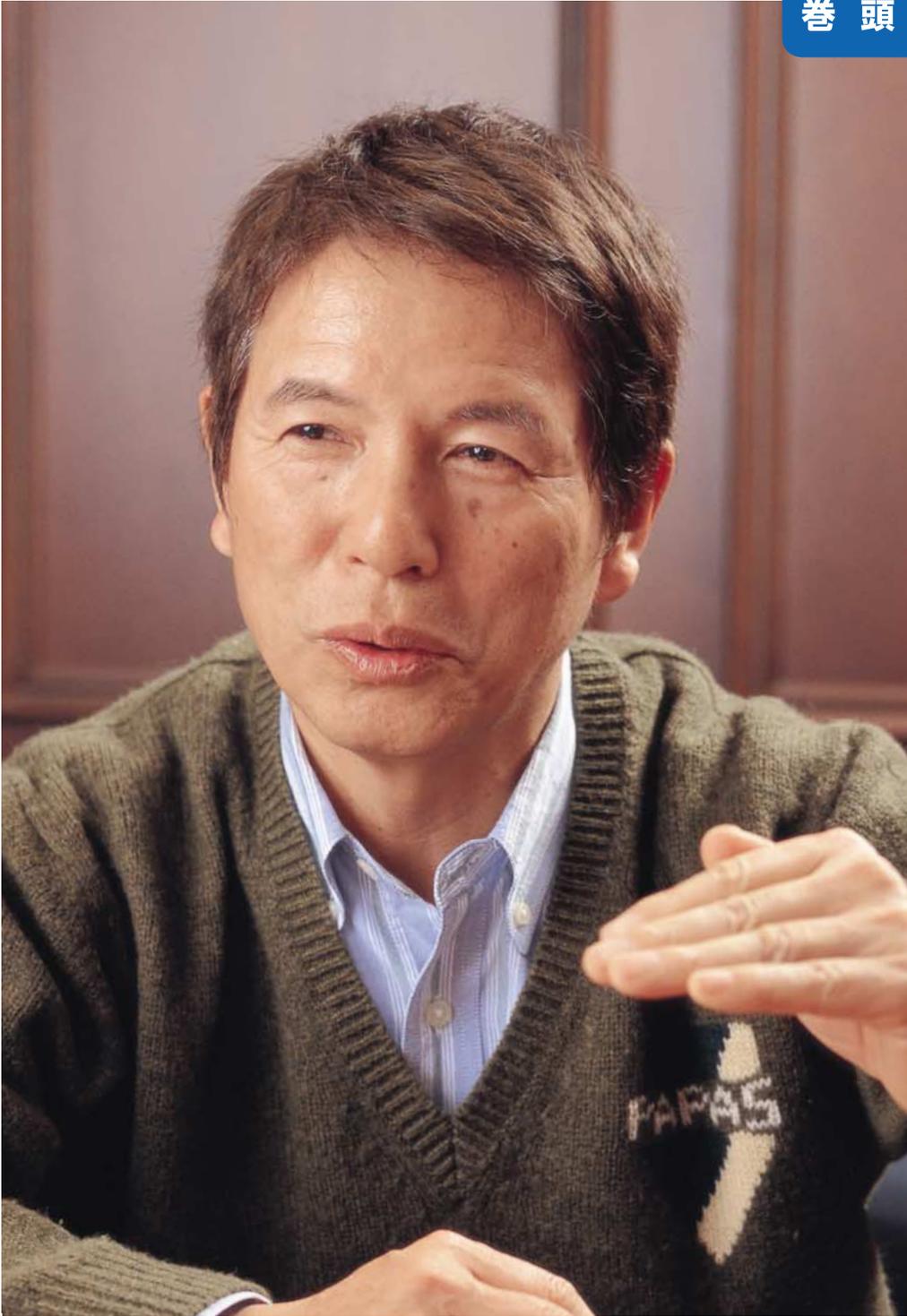
墨田さんちの男女共同参画物語  
お父さん、ボランティアに挑戦！ 10P

私らしく輝いて  
川俣由美さん 12P

# 清水 國明さん

タレント

フォークソング・デュオ「あのねのね」でデビューし、一躍お茶の間の人気者になった清水さん。軽妙なトークでおなじみのタレントとしての顔のほかに、アウトドアライフの伝道師という別の顔がありました。そんな清水さんのライフスタイルに迫ってみました。



**芸能活動のかたわら、アウトドアを推奨する活動をはじめたのはなぜですか？**

23歳で芸能界にデビューしてから、しばらくは毎日楽しくて充実していたのですが、だんだん「これだけで人生が終わってしまったらもったいない」と思うようになってきました。それで、30歳からバイクのレースをはじめたら、移動の最中、キャンプをする機会がよくあったのです。もともと福井の山育ちだからでしょうか、自然の中になると、芸能人としての自分ではなく、本当の自分に帰れるような、気持ちのいい感じがしました。それが、アウトドアライフにのめり込むきっかけでしたね。

現在、釣りやカヌーなど自然体験やものづくりを推奨する全国組織「自然暮らしの会」を主宰しています。また、2005年、かねてからの夢であった大規模な自然体験施設をオープンさせました。

**子育ての時期も、アウトドアライフを楽しんでいたそうですが？**

娘が3人いるのですが、34歳で最初の子どもをもったとき、僕には家にいる時間があまりなかったのです。芸能界の仕事は、日本中を飛び回るものなので、移動時間が長いことが最大のネックでし

# 仕事のほかに好きなことをやっていると人はハプニングに負けず強く生きていけます

た。そこで、キャンピングカーを購入し、家族と移動しながら生活するようになった。車が家なので、朝、家ごと僕の仕事場へ行き、休憩時間に帰ってきて子どものおむつを替えたりミルクをあげたりしました。上の子が小学生になるくらいまで、こんな生活をしていました。

その車で、時間が空くとよくキャンプに行きました。子どもが寝ている間に河原に移動して、目覚めたときに「ここはどこ?」とびっくりさせるのが楽しみでした。休みが取れるときには、マイナス40度のアラスカや赤道直下の無人島などに連れていき、ほとんどサバイバルに近いキャンプをしていました。だから、うちの子どもたちは気温差に強く、どんな環境でも生きていけます(笑)。

よく、「いまは仕事が忙しいから、子どもと遊ぶのはもう少し後で」と言っているお父さんがいます。でも、そうやって家庭を留守にしているうちに、子どもはあつという間に成長して離れていってしまいます。家族と一緒に楽しく過ごしたくて一所懸命働いているのでしょくに、それでは意味がないですよね。僕はその時期は子どもとみっちり過ごそうと

決めていたので、どうすれば子どもと一緒にいられるかと工夫したのです。

## 現在、取り組んでいる活動について教えてください。

僕はいま、55歳です。妻と子どもたちは、それぞれやりたいことにチャレンジしている。僕の父親としての役目はある意味終わったと思っています。人生を季節で分けるとしたら、家族中心の季節から自分のために生きる季節に入ったといっているように。

そんな僕がいまチャレンジしているのは、河口湖につくった自然体験施設を成功させることです。そこでは、釣りやカヌーを体験したり、のんびりたき火をながめたりと、自然の中で思い思いに過ごすことができます。将来的には、エンターテインメントを融合した一大レジャー施設にする構想があります。この計画に協賛して、出資してくれる人を見つけるために、いま一所懸命奔走しているところです。スタッフたちも、同じ夢をもつてがんばってくれています。

これだけの事業を興すには、大勢の人

を巻き込んでいられ、大きなお金が動いています。それは、大きなリスクを背負った冒険だといえるでしょう。でも、僕は死ぬときに「ああ、あれもこれもやりたかった……」と言いながら死ぬのは絶対にはやなのです。この人生であらう何回、夢中で突っ走ることがあるだろうと考えると、リスクを恐れている場合ではないと思います。そついうわけで、いま必死で取り組んでいます。めっちゃくちゃ楽しいですよ。

## 男性たちのライフスタイルについてアドバイスをお願いします。

僕と同世代の団塊の世代は、もつと一斉に定年を迎えます。僕らは、「この道一筋」というのが美德とされていた時代に育ちました。だから、仕事一筋で生きてきたため、ちがう価値観に対応する自信がない人が多いのです。その上、男性は女性とくらべて人生の転機が少なく、変化に慣れていません。仕事で挫折したから自殺してしまうという人が、この世代に集中しているのもそのためでしょう。

僕は、芸能活動の他にバイクやアウトドアという好きなことをしてきました。好きなことがあれば、たとえ仕事で何かあっても生きる力になるし、いくつかの世界を経験していることで、ハプニングに強くなるのではないのでしょうか。ぜひ、仕事だけではない、自分の好きなことを見つけてください。

僕の活動は、そのお手伝いをするということもあります。自然の中に行くと、本来の自分と素直に向き合え、自ずと好きなことが見えてくるからです。やりたいことがわからないという人は、少しでもいいから、自然と接する時間を持ってみてはいかがでしょうか。

### プロフィール しみず・くにあき

1950年生まれ。73年フォークソング・デュオ「あのねのね」で芸能界デビュー。95年「自然暮らしの会」を立ち上げアウトドアライフの普及に努める。05年アウトドアテーマパーク「森と湖の楽園」をオープン。テレビ・ラジオの司会等の他、アウトドア・環境・災害等についての講演や執筆と幅広く活躍中。



# 仕事だけが人生じゃない！

## 男たちのライフスタイル再考

これまで男性は、家族を養うために仕事ひと筋に働くことが求められてきました。家族の幸せを思えばこそ、男性は残業もいとわず仕事中心の生活を送ってきました。

「男は仕事、女は家庭」という価値観は女性だけでなく、男性の生き方をも狭めてきたと言えます。

しかし、経済構造が大きく変わり、終身雇用の形態が崩れ、働く価値観は多様化しています。

仕事だけが人生じゃない。

もっと家庭や地域での生活をしてみたい……。そんな男性も増えているのではないのでしょうか。人生80年時代を迎え、もはや定年後は余生ではありません。

第二の人生こそ、自分らしく輝きたい。そのためには、現役時代から地域とかがわり、活動の場を広げていくことも大切ではないでしょうか。

そんな男性のライフスタイルについて考えてみました。

これまでの典型的な男性のライフスタイルは.....

定年まで同じ会社で

！終身雇用制が揺らいでいて、リストラの危機も他人事ではない。



家計は一人で支える



！賃金は、年功序列制が破綻しかけていて、水準も下がっている。

家庭よりも仕事優先



！子どもとコミュニケーションがとれない。家庭崩壊の危機も。

家事育児は妻まかせ



！生活能力がなく、老後は困ることに。熟年離婚にいたることも。

地域のつながりはなし



！地域とのつながりがないと、定年後の生活がさびしいものに。

そして定年後は.....

！何をしたいかわからず、いつも妻にくっついて「ぬれ落ち葉」になってしまうかも.....



# 男性のライフスタイルこれまでとこれから

これまで伝統的なスタイルとして受け入れられてきた「男は仕事、女は家庭」という性別役割分業は、実は1950年代半ばから70年代半ばの高度経済成長を支えるシステムとして普及してきたものです。

戦後、急速な発展を遂げた日本は、主として企業の利益を優先するシステムづくりを行ってきました。終身雇用のもと、男性は家族を養える賃金を保障され、企業の戦力となって長時間働き、女性は男性が仕事に専念できるよう家庭を支えてきました。家族を養う責任を一身に背負った男性は、家や子育て、地域とのかかわりなどには目を向けず、「仕事人間」と化しひたすら働いてきたのです。

しかし、平均寿命が伸びた現在、定年後はもはや余生ではありませんが、身の回りのことが一人でできずに苦労することが多いようです。また、趣味を楽しんだり、仕事以外の人間関係をつくってこなかったため、第二の人生を生きる場を持っていない人もいます。さらに、

妻との会話が少なく、熟年離婚に至るケースも増えています。

いきいきと充実した人生を過ごすには、家庭生活においても一人ひとりが自立し、お互いを対等なパートナーとして認め合うことが大事ではないでしょうか。そして仕事以外にも活動の場を広げることが大切です。いま、経済構造が大きく転換し、男性一人の収入で家計を支えていくことが困難な時代を迎えています。仕事を

じめ家事、子育てなど、生きるために必要な活動を男女が共に担っていくことが求められているのです。男性にとつて、自分の生き方を見直すチャンスではないでしょうか。少し立ち止まって、仕事・

家庭・地域とのかかわり方を考えてみませんか。そして仕事中心の男性の生き方を見直すことは、男女が共に自分らしく生きられる社会への一歩でもあるのです。

## 男性の地域参加・生涯学習情報

### すみだボランティアセンター

皆さんの希望に合う活動をご紹介します。また、一緒に活動探しをするなど、皆さんの生きがいと社会参加をお手伝いします。

☎ 03-3612-2940

### すみだボランティアセンター緑分館

☎ 03-5624-6080

### 墨田区シルバー人材センター

健康で働く意欲と能力のある経験豊かな高齢者の方々に仕事を提供する団体であり、働くことを通じて生きがいと健康づくりをすすめ、活力ある地域社会づくりに貢献しています。

☎ 03-3616-5048

### いきいきプラザ

元気なシニアが自ら足を運びたいくなる場、主体的にかかわりながら活動や交流を創造する場です。また世代間交流を通した「地域の絆づくり」の場となることもめざしています。

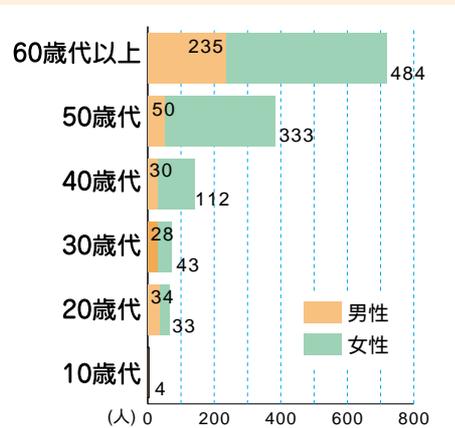
☎ 03-3618-0961

### すみだ生涯学習センター情報コーナー

墨田区内で活動している団体・サークルや人材・指導者に登録していただき、区民の皆さんに紹介しています。

☎ 03-5247-2008

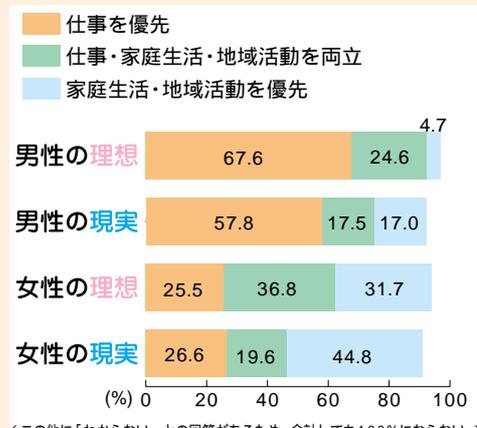
データ2 ボランティア活動をしている人 (男女・年代別人数)



ボランティア活動をしている人は、60歳代以上が圧倒的に多く、とくに男性はその年代から急増しています。

資料：「厚生労働白書」平成15年版

データ1 仕事・家庭・地域への関わり方 (男女別・理想と現実)



男性は、家庭生活や地域活動よりも仕事を優先させたいと望んでいる人が多く、実際に半数以上の人が優先させています。

資料：内閣府「男女共同参画白書」平成17年版

データにみる  
男性の家庭・地域への参画状況

## 「第二の人生」

### 夫婦でどう過ごしていますか？

区内在住・在勤の定年世代を中心に、生きがいをサポートしている「てーねん・どすこい倶楽部」に所属する吉田修さんと後藤俊也さん、その妻吉田ヤスコさんと後藤美千代さんに、夫婦で過ごす第二の人生について語り合っていました。



吉田ヤスコさん、吉田修さん

**吉田修** 私は、61歳で定年退職するとき、妻に勧められて「てーねん・どすこい倶楽部」に入会しました。そののち会長に任命され、2年ほどになります。現在、どすこい倶楽部には50代から80代までの男女53人が所属し、ボランティアをはじめ、第二の人生を楽しむための活動に励んでいます。

**後藤俊也** 私は、入会7か月めの新米会員です。3年前、印刷会社を58歳で退職してから、しばらくは再就職をめざしていましたが、でも、40年間働き詰めたのだから、仕事はもういいかなという気持ちになりました。そこで、ボランティアをしてみようと思ったのがきっかけです。

**後藤美千代** 楽しそうにやっているの、よかったですと思います。

**吉田ヤスコ** そうですか。うちの場合、コンピュータ関係の仕事で海外勤務の経験があるので、その経験を生かせるようなボランティア活動をしたらどうかと、私から気軽な気持ちで勧めた



パソコン講習会で指導する吉田さん

んですが、こんなに多忙になるとは思いませんでした。定年後は、ボランティアをしながら、趣味の音楽を楽しんだり、絵を習ったり、私と一緒にもったりゆったりした日々を過ごしてくれらるものと思っていました。

**吉田修** いま、高齢者向けのパソコン講習などをボランティアで行っています。ただ、それよりも会長として担っている運営事務のほうに、より多くの時間を割いているのが現状です。情報紙の取材をしたり、パソコンの知識を生かして倶楽部の事務処理、メールマガジンの配信、ホームページづくり等をしていきますが、これがかなりの手間と時間がかかるので、家でもパソコンに向かっています。そんな

第二の人生を楽しく過ごすには、男性の自立が欠かせません

伊藤 公雄 先生



プロフィール/京都大学大学院文学研究科教授。2001年より内閣府「男女共同参画会議基本問題専門調査会」委員、2003-4年、内閣府「男女共同参画社会の将来像検討会」座長代理を務める。著書『男女共同参画』が問いかけるもの」など多数。

来年、団塊の世代が一齐に定年を迎えますが、私にはそれに伴っていくつかの社会問題が生じることを危惧しています。その一つは、話題の「熟年離婚」です。ちょうどその年から、年金分割ができるようになることもあり、定年後の離婚の急増が予想されるのです。離婚に至らないまでも、ストレスにより何らかの不調を訴える女性が増えるでしょう。これは、現在でも「夫在宅ストレス症候群」などといわれ、問題になっていることです。

それらの原因は、男性の多くが仕事中心の生活をしてきて、仕事以外に生きる道を知らないことです。そのような男性は、定年後、やることなく一日中妻にべったりとまとわりつく、いわゆる「ぬれ落ち葉」になります。家事は、やり方がわからないからといって、妻に一切まかしているという人が少なくないようです。それでは、妻は一日中夫の世話をやかなくてはなりません。その上、用件以外の会話が無いといえます。熟年男性に多くみられる傾向ですが、結論を導き出す議論などは得意でも、相手の気持ちに配慮したり共感したりする、ふつ々の雑談が苦手なのです。仕事一筋だった男性は、そんな基本的なコミュニケーションの経験が乏しいので、



子どもたちにハーモニカを披露する後藤さん



左から後藤美千代さん、後藤俊也さん、

イベントの時間を割くために、これからは他の人にも分担していただこうと考えています。

**吉田ヤスコ** 期待しています（笑）。

**後藤俊也** 私は週2回、

文花子育て相談センターで子どもと遊んだり、遊び道具の準備や片づけをしています。男性がこういう役目をするのは珍しいらしく、最初は私を見て泣きそうになる子もいました。でも最近は、みんな慣れ

てくれて、私のハーモニカにあわせて歌ってくれたりします。そんなときは、可愛いなあと思いますね。

**吉田修** 後藤さんが入会してくれて、とても助かっています。入会の翌日から活動をはじめてくれたのですが、そんな熱心な人はなかなかいません。

**後藤俊也** 私自身、楽しんでいたので、ボランティアをはじめてよかったです。もしはじめていなかったら、することがなくて、毎日大好きなお酒ばかり飲んでいたかもしれません（笑）。

会長の吉田さんには申し訳な

いのですが、それほど忙しくないのです。妻との時間も大切にしています。ときどき、夫婦でドライブに出かけます。

**後藤美千代** この間は、日光に行きました。紅葉が最高にきれいでしたよ。

**吉田ヤスコ** うらやましいことです。でも最近は、夫がやりたいことなから、自由にさせてあげるように心がけています。夫婦がそれぞれ別のことをしていても、お互いに認め合うことが大切なのです。それに、夫にとって現役時代には皆無だった地域の人のつながりができたことは、大きな収穫だと思います。

**吉田修** 本当にそのとおりです。もし、定年後にやりたいことが見つからないという人がいたら、どすこい倶楽部のような地域サークルをのぞいてみることをおすすめします。第二の人生が充実するためのヒントがきくと見つかりますよ。

妻と気持ちを通わせる会話が少ないというわけでは

このような夫が毎日家にはいては、妻がストレスで具合を悪くするのも無理はないでしょう。妻も災難ですが、自分が家にいるだけで最愛の妻が病気になるってしまおうというのは、夫にとっても悲劇です。

こんなことにならないように、定年前から、もしくは定年後でも、男性たちには生き方を見直してみることをおすすめします。趣味を持ったり、地域活動などで仕事以外の人のつながりを持つたりすることが大切です。また、家事をして生活能力を身につけることも必要です。このことは、妻のストレスを軽減するのに役立つのはもちろんですが、男性自身のためにも非常に重要なことです。妻と離婚、もしくは先立たれたという60歳以上の男性は、平均余命が極端に短いという調査があります。これは、生活能力が乏しいということに加えて、男性が精神的にも妻に依存しきつていてということの表れではないでしょうか。

だから、男性たちには、妻がいることを前提にしなくてもいいくらい自立してほしいのです。自分の身の回りのことは自分でやる、地域の人とコミュニケーションがとれるようにする。そのように訓練していけば、長い第二の人生で、仮に妻が倒れても介助しつつ頑張れます。また、夫婦関係も、自立した者同士が支え合うという私たちのほうが、お互い快適ではないでしょうか。

いま、このことに気づき、「何とかしなければ」と行動をはじめている男性も増えていきます。熟年男性の趣味を扱う雑誌は人気を呼んでいるし、男性の料理教室は大盛況です。もし、気づいていない男性がいたら、女性から働きかけるのもいいでしょう。ただ、いきなり「自立しなさい」と言っても反発を招くものです。さりげなく、定年後の生き方についての本や記事を卓上に置いておくとか、地域活動に誘ってみるなど、試してみたいかがでしょう。

てーねん・どすこい倶楽部  
シニア人材バンク運営・セミナー開催  
など定年世代の支援活動をしています  
入会対象 おおむね55歳以上  
事務所 区役所3階  
☎0356608-2577  
ホームページ  
<http://www.city.sumida.tokyo.jp/dosukoi/>

## 男女共同参画社会を実現するための条例を制定しました

墨田区では、女性と男性が性別にかかわらず個性と能力を十分発揮できる男女共同参画社会を実現するため、平成17年12月9日に、その基本となる条例を制定しました。

### 「墨田区女性と男性の共同参画基本条例」概要

(1) 基本理念を明らかにしました。(第3条)

#### 《基本理念》

性別による差別的な取扱いを受けず、その人権が尊重されること。

性別による役割の固定化をもたらず社会制度及び慣行を解消するように努めるとともに、一人一人がその個性と能力を十分発揮し、自己の意思により社会における多様な活動を選択できること。

性別にかかわらず、すべての人が社会の対等な構成員として、あらゆる分野における活動の方針の立案及び決定過程に参画する機会が確保されること。

性別にかかわらず、すべての人が相互の協力及び社会の支援のもとに、家庭生活及び社会生活、地域活動等を両立できること。

学校教育、生涯学習その他のあらゆる学習の場において男女共同参画社会の形成に向けた取組がなされること。

(2) 男女共同参画社会実現に向け、区、区民、事業者、地域団体の責務と協働を盛り込みました。(第4条～第8条)

(3) 性別による差別的な取扱いの禁止、ドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ハラスメント、女性に対する暴力的行為を助長する表現や性別による差別を助長する表現の禁止等を盛り込みました。(第9条)

(4) 墨田区が、男女共同参画を推進するための基本的施策を盛り込みました。(第10条～第13条)

(5) 男女共同参画を推進する上で、区民、事業者及び地域団体からの人権侵害や区の施策等の苦情の申出に適切かつ迅速に対応するための苦情調整機関として「墨田区男女共同参画苦情調整委員会」の設置を盛り込みました。(第14条～第21条)

(6) 墨田区男女共同参画推進委員会の設置を盛り込みました。(第22条～第27条)

(7) 施行日は平成18年4月1日です。苦情調整機関の規定は平成18年10月1日から施行します。

条例の全文は、墨田区のホームページ(自治振興・女性課)でご覧いただけます。

URL▶ <http://www.city.sumida.lg.jp>

すみだ女性センターからお知らせ

ご参加ください

すずかけ講座  
いつまでも輝いて  
美しく健康で、をモットーに、

山岡有美さん(日本女子体育大学講師)  
平成18年3月30日(木) 4月6日  
(木) いずれも午前10時から12時まで  
定員30名

募集します

すずかけ大学

女性も男性も「自分らしく生きる」  
社会の実現に向けて、仲間と一緒に楽しく学ぶ連続講座です。今回は、男女共同参画の基礎的な知識の他に区政についても取り上げ、身近な問題を考えます。

詳しい内容、日程と申し込み方法は4月11日号区報をご覧ください。  
オットマン倶楽部

夫・父・男…さまざまな立場の男性が集い、話し合い、新しい仲間を作り、明日への元気を養う、そんな男性のため



すみだ女性センター

〒131-0045  
東京都墨田区押上二丁目  
12番7-111号  
☎ 03(5608)1771  
☎ 03(5608)1770

【表彰団体】

地域活動部門

- 本所環境衛生協会 会長 矢崎 春雄
- 墨田区生活学校連絡会 会長 中島 マサ
- 曳舟中町会 会長 清水光三郎
- 東駒形四丁目町会 会長 寺内 照喜
- 東向島町会 会長 鎌倉 徳之

女性の能力活用、職域拡大部門

- 吉田プラ工業株式会社 代表取締役社長 吉田 繼雄
- 中ノ郷信用組合 理事長 近藤 宏
- 墨田区異業種交流グループ ステップアップ'99 代表 臼井 征子

その他男女共同参画推進部門

- すばるの会 代表幹事 中野 ツヤ

仕事と家庭の両立支援部門

- アサヒビール株式会社 代表取締役社長 池田 弘一

墨田区では、今後、介護保険法の改正により平成18年4月に設置予定の地域包括支援センターが、高齢者虐待に関する相談・指導及び助言を行い、虐待防止のための啓発活動を行います。区は地域包括支援センターや、すみだ福祉サービス権利擁護センター、その他の関係機関、地域住民などと連携し、成年後見制などの権利擁護事業の普及啓発をはじめ、虐待防止のための早期発見ネットワークづくりなどに積極的に取り組んでいきます。

めのサロンです。5月から8月まで全6回予定しています。たくさんの方にご参加いただき、楽しいサロンにしていきます。

詳しい内容、日程と申し込み方法は4月21日号区報をご覧ください。

条例制定記念フォーラムを開催しました

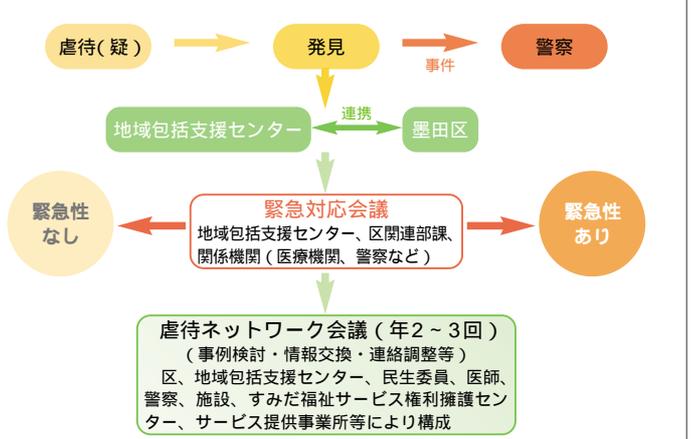
平成18年2月12日(日)に「墨田区女性と男性の共同参画基本条例」の制定を記念し、フォーラムを開催しました。第1部では、男女共同参画を推進している事業所・地域団体に、墨田区長から表彰状が授与されました。また、各団体の皆さんから、取組内容の紹介もありました。第2部では、「女と男でつくるハーモニー社会」をテーマに、美雅子さん(弁護士・女性と仕事の未来館館長)による基調講演が行われました。

高齢者虐待を防止する

平成17年11月に、「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」が制定されました。このことにより、高齢者の虐待を発見した時は速やかに通報することが住民の義務となり、行政は通報に基づき緊急と判断した場合に一時保護に関する措置を講じることや、立ち入り調査をすること、また、養護者の負担軽減のため、短期間高齢者を保護する居室を確保すること等が義務として位置づけられました。

墨田区では、今後、介護保険法の改正により平成18年4月に設置予定の地域包括支援センターが、高齢者虐待に

すみだ虐待防止ネットワーク(案)



- 相談窓口(高齢者福祉に関する総合相談にお答えします。)
- はなみずき在宅介護支援センター ☎03(3610)6541
  - たちばな在宅介護支援センター ☎03(3617)6511
  - こうめ在宅介護支援センター ☎03(3625)6541
  - うめわか在宅介護支援センター ☎03(5630)6541
  - 在宅介護支援センター同愛記念ホーム ☎03(3624)6541
  - むこうじま在宅介護支援センター ☎03(3618)6541
  - みどり在宅介護支援センター ☎03(5625)6541
  - なりひら在宅介護支援センター ☎03(5819)0541
- (\*4月から地域包括支援センターに変更予定)

区の相談窓口  
高齢者福祉課相談担当 ☎03(5608)6170

墨田さん一家は会社員のお父さん、パートで働くお母さん、高校生のさくら、中学生の太郎とおじいちゃん、おばあちゃんの6人が一つ屋根の下で暮らす、にぎやか3世代家族。いつも話題が絶えません。さて、今回はどんな話が飛び出すのでしょうか……。

墨田さんちの

# 男女共同参画物語



## [ お父さん、ボランティアに挑戦! ]の巻

父 ただいま……。

母 まあ、お父さん、今日も早いね。

父 うん、例の準備があるからね。

さくら あれ？ お父さん、何かいいことでもあるの？

父 実は、地域のお父さんたちと、子どもに遊びを教えるボランティアを立ち上げたんだ。

太郎 それでね、お父さん、今度の土曜日、小学校に竹馬やベーゴマを教えに行くんだって。

さくら なるほど。特技を生かしてボランティアってわけか。

母 そうなのよ。町会の清掃活動のときに知り合ったお父さんたちと意気投合しちゃったらしくって。

父 ほら、父親同士って、話す機会がほとんどないだろう。仲間づくりも兼ねて始めることにしたんだ。

母 さまざまな職業の方がいらっしやるでしょう。

父 そうなんだよ。エンジニアや大工さんもいて、いろいろなことができそうなんだ。ゆくゆくはNPOとして活動しようという話も出てるんだよ。

さくら お父さん、なんだかいきいきしているね。

父 そうか。まあ、おかげで仕事を早く片づけて帰ろうという気持ちにもなれたしね。

祖父 仕事ばかりの人生なんてつまらん。ぬれ落ち葉にならないためにも、いいことじゃないか。

男女共同参画社会への

## キーワード

特技を生かして

ボランティアに関心はあるけれど、「誰かを助ける、支援活動に参加する」と身構えてやるのは苦手という人もいるのでは。そこで最近では、「ちょこボラ」と称して、特技を生かしてやれるボランティア、1日だけのボランティアなど、初心者向けに気軽に始められるボランティアの輪が広がっています。

NPO

Non Profit Organization(非営利活動組織)の略。住民が主体となってコミュニティベースで社会的な活動を行う民間の非営利団体をいい、特定の条件を満たすものは特定非営利活動法人として法人格が取得できます。今、福祉、教育、まちづくり、環境問題など、さまざまな分野で、暮らしやすいまちづくりのためのNPOが誕生しています。

ぬれ落ち葉

身の回りのことは一人でできず、仕事以外に興味や活動の場を持たず……。定年後何もすることがなく、暇を持て余した夫が妻にまとわりつく様子を、ほろきにまとわりついてなかなか離れない「ぬれ落ち葉」になぞらえて名付けられた言葉です。



僕もこの間、学校でボランティア体験をしたんだよ

そうかい、これからは男も仕事だけの人生じゃつまらんからのう

お父さん、何だかいきいきしてるわね

町会の清掃のときに意気投合したみたいよ

父親仲間でボランティアを立ち上げたんだ

さあさ、お鍋ができましたよ

祖母 そうですよ。最近では**熟年離婚**も増えているっていうし……。

さくら まあ、我が家には無縁だけだね。それより、おばあちゃんはずまくいつてるの？

母 そうそう。新米パパやママの育児をお手伝いする**コミュニティ・ビジネス**を始められたそうで……。

祖母 自治会の会長を引き受けたおかげで自信がついちゃって。女性ならではの経験やネットワークを生かして何か仕事にできないかって、みなさんで始めてみたのよ。

祖父 おばあさんもたいしたものだよ。

母 お義母さんもまだまだお元気だし、これからは高齢者の方の働く場が必要ですからね。

太郎 おねえちゃんも希望の大学に合格したし、やっぱり我が家のパワーはすごいね。僕も負けずがんばらなくちゃ！

父 とここで、太郎の夢はなんだ？

太郎 **介護士**になるのが夢かな。

母 これからますます必要とされる仕事ね。

太郎 そうなんだ。女の人の仕事かと思っていたけど、学校のボランティア体験で男性の介護士が働いているのを見て、僕もやってみたいなって思ったんだ。

父 ほう。すごいじゃないか。

さくら ねえねえ、そろそろお鍋、煮えたんじゃない？

祖父 おつ、そうだな。今夜はおじいちゃん特性ちゃん鍋だよ。これを食べれば、明日も元氣100倍じゃ！

全員 では、いただきます。



**介護士**

改正男女雇用機会均等法の施行以降、職域のポイダレス化が急速に進んできました。最近では介護士、看護師、運転士、消防士等、男女を問わず、個性を生かし自分のやりたい仕事にチャレンジする若者が増えています。

**熟年離婚**

離婚件数が毎年過去最高を更新するなか、婚姻期間の長い夫婦の離婚、いわゆる熟年離婚が増えています。全離婚件数のうち、同居20年以上の離婚は、1975年には6810件だったのに対し、2004年には約6倍の4万1958件まで増えています。

**コミュニティ・ビジネス**

住民が主体となり、地域の資源を活用して、地域の抱える課題をビジネス的手法で解決しようとするもの。コミュニティの再生を通して利益を地域に還元できるビジネスとして、また地域の活性化や新しい雇用の創出につながるビジネスとして、近年注目を浴びています。

# 私らしく輝いて

少しでも誰かの役に  
立つことができる  
この仕事に  
大きな誇りをもっています



向島消防署・消防官  
川俣 由美さん

## 火

炎時の消火活動や、人命救助など、昼夜を問わず私たちの暮らしの安心と安全を支える消防官。男性の職業と思われがちですが、昭和47年に東京都で女性消防官が誕生して以来、女性の職業としても定着しつつあるのを存じてでしょうか。

「せっかく働くのなら、少しでも誰かの役に立つような仕事をしたいと思っていました。そんな時、女性消防官のことを知り、思い切って挑戦することにしたのです」

こう語る川俣由美さんも消防官の一人。現在は向島署に所属し、20年目のベテランとして、災害現場での状況把握や伝令を担当する指揮隊や救急隊で活躍する毎日です。

「はじめの頃は男性ばかりの職場にとまどつこともありましたが、ひとたび現場に出れば、性別は関係ありません。精いっぱい目の前の仕事にあたるだけです」

それでも、仕事上、筋力や体力など、男性と比べてどうしても不利な点があるのも事実です。「消防署の男性はみんな優しいですから、重量のある機材の運搬など、いつの間にかフォローしてくれているのを感じることもあります。感謝しているのと同時に、私が男性であれば余計な気を遣わせなくても済むのにと、寂しい気持ちにもなりますね。で

も、この仕事で重要なのはチームワーク。そこで変に意固地になるのではなく、違う場面でそれを補えるように努力することが大切だと思います」

そんな川俣さんも、11年前に出産し、仕事に復帰した直後は、仕事と育児の両立に悩んだこともありました。

「しかし、毎日めざましく成長していく子どもの姿をみるうちに、親として子どもに恥ずかしくない仕事をしなければ、と強く感じるようになりました。それから、救急救命士の資格を取得するなど、仕事に対する責任感やごん欲さも増しました。

これから子どもにも恥ずかしくないよう、誇りをもってこの仕事をできる限り長く続けていきたいですね。」

と、最後に力強く語ってくれました。



「救助した方の「ありがとう」の一言が大きなエネルギーになっています」と語る川俣さん